

アイヌの人たちの歴史・文化

芸能

江戸時代の文献『蝦夷島奇観』^{えぞしまきかん}には、アイヌの人たちの芸能に関する歌(ウポポ)や踊り(リムセ)に関する説明とともに、楽器や踊る様子が描かれています。伝承されてきた歌や舞踊は、祭祀の祝宴やさまざまな行事に際して披露され、アイヌの人たち独自の信仰に根ざしています。また、こうした歌や踊りは昔からの形態をとどめている様式のものも多く、信仰と芸能と生活が密接不離に結びついているところに特色があり、芸能史的な価値が高いものと言えます。

アイヌ古式舞踊

アイヌ古式舞踊は、必ず歌とともに行われ、改まった場では男女とも伝統的な正装で踊ります。地域社会を単位として行う伝統的な祭事(熊送り、フクロウ祭り、菱の実(ペカンペ)祭り、柳葉魚祭り、最近はまりも祭り)や、それに伴う饗宴などの場で披露されるものと、家庭における各種行事の祝宴の際に踊られるものがあります。

その内容は、祭りのための酒造りの時に歌われる「杵搗きの歌」や「ざるこしの歌」に合わせて踊る作業歌舞のようなものから、祭祀的性格の強い「剣の舞」、「弓の舞」のような儀式歌舞、「鶴の舞」、「バツタの舞」、「狐の舞」のような模擬舞踊、「棒踊り」、「盆とり踊り」、「馬追い踊り」などの娯楽舞踊、さらには「色男の舞」のような即興性を加味した舞踊があります。

また、その多種多様な曲目もそれぞれのコタンによって伝承曲目が異なり、さらに、その舞い方にも地域差が見られます。いずれも歌を中心とし、踊りは輪舞を基本として構成されており、信仰あるいは生活の中から生まれた舞踊性を今なお色濃く伝えています。これらは、特定の専門家によって作られ、演じられてきたものではなく、それぞれの地域や家庭で、実際に歌ったり踊ったりすることを通じて、伝承されてきたものです。踊りとは自らが踊って楽しむものであり、また神々も同時に楽しむものと考えています。

アイヌ古式舞踊は、民俗芸能として芸能史的な価値が高いと評価され、1984年には、国の重要無形民俗文化財に指定されています。現在は、17地域の保存会がその保持団体となっています。毎年開催されるアイヌ民族文化祭などに参加し、地域に伝わる舞踊を披露しており、道外、海外での公演も活発で、目に見えるアイヌ文化紹介の一端を担っています。



<鶴の舞>

歌

歌は、手拍子が付随するほかは基本的には無伴奏で歌います。演唱形式は独唱、斉唱、輪唱形式です。歌唱では地声と裏声、喉の奥からの強い摩擦音や呼吸音、舌先の震え声など多彩な音色で歌います。

楽器

ムックリ ~ 約15cmの竹片に切り出した弁の根元に紐がついたもの。

トンコリ ~ 主にサハリンアイヌが使用した琴状の楽器。1本の木をくり抜いて胴体とし、天板を張り合わせています。長さ70cm~150cm、幅15cm前後の大きさで五弦の他、三弦や六弦のものもあります。胴体にはエゾマツ・イチイ・ホオノキなどの木が、弦にはエゾイラクサの繊維をよったものや、クジラやシカ、トナカイの腱などが使われています。



<ムックリ>



<トンコリ>

【出典】 『アイヌの人たちとともに』 その歴史と文化 (財)アイヌ文化振興・研究推進機構
『ポン カンピソシ』アイヌ文化紹介7・芸能 北海道立アイヌ民族文化研究センター編
『世界百科事典 アイヌ【音楽・舞踊】』 甲地利恵 平凡社
『アイヌ古式舞踊とは-』(社)北海道ウタリ協会・北海道アイヌ古式舞踊連合保存会

アイヌ語 豆知識

今回は、芸能(歌)に関係するもののアイヌ語の一例を紹介します。

イヨハイオチシ(i-ohay-o-cis) = 恋歌

ウポポ(upopo) = 座り歌(輪唱)

タブカラ(tap-kar) = 男性の舞い

シノッチャ(sinot-ca) = 遊び歌(歌の節)

イフンケ(i-hunke) = 子守歌

ヤイサマ(yay-sama) = 想いを述べる歌(即興歌)

ヘツチェ(hetce) = 合の手

レプニ(rep-ni) = 拍子棒

トプ(top) = 笛

【出典】 『萱野 茂のアイヌ語辞典』 萱野 茂 著 三省堂
『アイヌ語沙流方言辞典』 田村すず子 著 草風館

白老町立竹浦中学校の取組

白老町立竹浦中学校では、「総合的な学習の時間」において、白老町が推進している「アイヌ文化を学ぶふるさと学習」を通して、アイヌの人たちが自然とのかかわりの中で育ててきた文化や豊かな知恵等について、地域の人と触れ合う体験的な学習を通して理解を深めています。

【アイヌの人たちの歴史や文化等についての講演の様子】



【生徒の感想】

アイヌの人たちの言葉や生活の様子など、本当に興味をひくことばかりで、アイヌの歴史や文化等についてもっと知りたくなりました。

【生徒の感想】

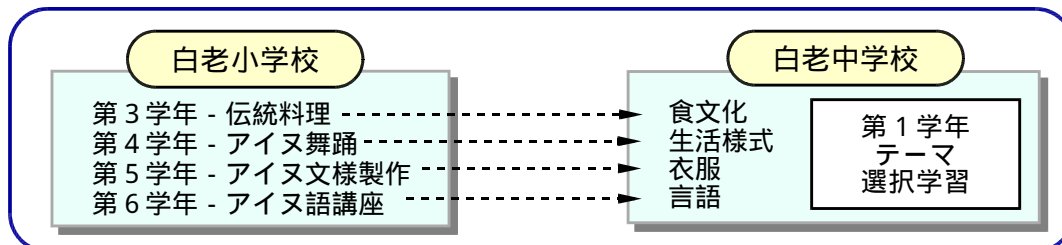
アイヌ文様にも様々な意味や願いがあることを知り、アイヌの人たちの衣服や食生活についても調べてみたくなりました。



【アイヌ文様の刺繍に挑戦する様子】

白老町立白老小学校、白老町立白老中学校の取組

両校では、北海道教育委員会の「北の大地に根ざした豊かな学び推進事業」の調査研究校として、「アイヌの人たちの歴史や文化等に関する学習」をテーマに、小・中学校間の接続に配慮した一貫性のある指導計画の作成など、連携した取組について研究を推進しています。



アイヌの人たちの歴史・文化等に関する指導の実践例の紹介

～ 北海道公立学校教育課程研究実践成果報告集から～

白老町立竹浦中学校(平成19年度北海道公立学校教育課程研究実践成果報告集概要掲載)

< 研究主題 > 地域への愛着を深め主体的に自分の生き方を見つめる生徒の育成

～ 地域との連携・協働による特色ある教育活動を通して～

< 研究の概要 >

総合的な学習の時間において、地域の教育資源を積極的に活用し、人生の先輩の生き方を学ぶ取組の一環として、アイヌ民族博物館の協力の下、アイヌの人たちと共にムックリ製作やアイヌ文様の刺繍体験などを実施している。生徒は、ふるさとの多くの伝統文化に触れ、アイヌの人たちの歴史や文化への理解と愛着を一層深めている。